

早期水稲作に於ける宿根性雑草の防除体系について

吉 松 進
(長崎県総合農林センター)

YOSHIMATSU, S.
Control of Perennial Weeds in the Early Cultivation of Paddy Rice

1. 緒 言 本県主要水稲早期栽培地帯の五島地域においては、近年、宿根性雑草のミズガヤツリが、経年的に著しく増加しており、早期稲の収量低下と除草労力の過重により、その作付面積減少の一因をなしつつある。このため、その防除法確立のため、第一段階として、水稲単作地帯を対象に、除草剤ATAを主体とした、除草体系について検討したので、その概要を報告したい。

2. 試験方法

圃場は、干拓試験地の普通期水稲跡の休閑地で、海成沖積の埴土に属し、カヤツリグサ科の、ウキヤガラ

が多発していた。1区面積37.5m²。2区制。供試品種コシヒカリ。田植=昭. 38年5月10日、昭和39年5月6日。なお、ノビエについては、田植後30日目の調査後抜取った。その他、当场耕種基準に準じ実施した。

3. 試験成績及び考察

兩年を通じ、ウキヤガラの発生抑制には、体系Ⅲが、最も有効で、水稲収量も明らかに増収の傾向を示している。従つて、ATA+2.4-Dを主体とした宿根性雑草の防除体系には、可成り高い実用性が期待されるものと推察される。しかしながら、ウキヤガラ発生の年次経過を見ると、体系Ⅲにおいても、昭. 38年

試験区の構成

散 布 日	田 植 前		田 植 後		田 植 後		田 植 後		稲 刈 後		
	20日(昭. 38) 17日(昭. 39)		7日(昭. 38) 〃 (昭. 39)		24日(昭. 38) 23日(昭. 39)		35日(昭. 38) 〃 (昭. 39)		10月8日(昭. 38) 10月16日(昭. 39)		
試験区	項 目	除草剤名	a 当成分 (g)	除草剤名	a 当成分 (g)	除草剤名	a 当成分 (g)	除草剤名	a 当成分 (g)	除草剤名	a 当成分 (g)
除草体系 I	—	—	PCP	75	PCP	75	水 中 MCP	3.6	DCPA + MCP	25 10	
除草体系 II	ATA	50	PCP	75	—	—	〃	〃	ATA + 2.4—D	100 10	
除草体系 III	ATA + 2.4—D	25 4.0	S.38 MCPCA S.39 NIP	5 25	—	—	〃	〃	ATA + 2.4—D	50 15	
除草体系 IV (標)	—	—	PCP	75	—	—	〃	〃	10月20日 耕 耘	—	
除草体系 V (放任)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

第 1 表 水稲収量, 雑草調査及び其の他

試験区	年 次	成熟期 (昭38. 8月17日 〃 39. 8月16日)			a 当	同 左	田植后30日調査(m ² 当)			落水期調査 (8月7日m ² 当)			昭.40年5月7日 調査 (m ² 当)	
		稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	穂 数 (本)			玄米重 (kg)	標準比 (%)	ウキヤガラ 発生本数 (本)	同左 比率 (%)	ヒエ 発生本数 (本)	ウキヤガラ 発生本数 (本)	同左 風乾重 (g)	ウキヤガラ 発生本数 (本)
除草体系 I	昭.38 39	76.8 67.7	16.7 17.1	13.1 9.7	29.4 19.5	103 72	43.5 138.5	75 83	0.7 19.0	62.7 —	57.7 —	127	119	
除草体系 II	昭.38 39	74.6 70.0	16.2 17.5	12.3 10.6	36.1 28.5	126 106	26.5 132.0	46 79	0.5 43.5	31.9 —	22.7 —	101	94	
除草体系 III	昭.38 39	78.5 75.7	16.4 17.9	14.1 11.9	38.2 32.9	134 122	19.0 44.5	33 27	0.2 14.5	23.2 —	18.6 —	45	42	
除草体系 IV (標)	昭.38 39	76.4 71.5	16.2 17.2	12.7 11.5	28.6 27.0	100 100	58.1 167.0	100 100	0.5 19.0	70.0 —	43.3 —	107	100	
除草体系 V (放任)	昭.38 39	80.5 66.4	16.4 16.5	14.3 10.0	29.2 18.8	102 70	56.5 163.5	97 98	0.2 38.0	63.9 —	53.4 —	103	96	

よりも, 39年は増加の傾向を示しており, 現状においては, 除草剤のみによる, ウキヤガラ完全防除は, 困難なものと考えられる。従つて今後は, 除草剤と他の耕種の対策等との組合せによる, 一層有効な防除体

系と共に, 水稲作後, 裏作を行うような場合には, 薬害や, 雑草発生にも影響があると考えられるので, これ等の点について, 更に検討する必要があるものと考えられる。